

鎌倉市における戸別収集のあり方について方針（素案）の説明会概要

令和6年2月22日（木）14時30分から15時30分 鎌倉芸術館集会室

参加者5名

- 1 ごみ減量対策課担当課長挨拶
- 2 方針（素案）の説明
- 3 質疑応答

Q 労働力不足が叫ばれている今、本当に作業員を確保できるのか。

A 収集事業者とは20回以上にわたり打合せを行っており、市内事業者に限らず、市外事業者への委託の可能性も含めて探ってきたところである。作業員の確保のため、十分に準備時間を確保して対応していく。

Q 前回クリアできなかった理由は解消できたのか。なぜ今なのか。

A 前回実施に至らなかった理由は、ごみの減量を主な目的とする中で、必要経費に対する減量効果が少ないという指摘があったことや、減量施策としての戸別収集制度の必要性に対する市民理解の醸成が不十分であるということであった。

当時から年数が経過する中で、高齢化や転入転出等によりクリーンステーション（以下、CS という。）の維持管理や設置場所の調整などに関して引き続き問い合わせがきている状況である。

このような中で、減量化という目的ではなく、CS収集に伴う様々な負担の軽減を主な目的として設定した。

今後、更なる高齢化を迎えていく中で、労働力の確保を含めた体制構築を今のうちから準備し、持続可能な収集体制を速やかに構築していく必要があると考えている。

Q 実施までのスケジュールはどのくらいを見ているのか。

A パブリックコメントの結果や市民理解醸成の状況を確認した上での判断となるが、スムーズに進められる場合は、4月に審議会で答申を受け、5月に方針確定、6月議会に諮り、令和7年4月から一部エリアで燃やすごみの戸別収集を開始し、令和8年4月から全市を対象に実施する想定である。

Q 市長は本当に戸別収集をやる気があるのか。

A 市長はやる気である。

モデル事業の頃と比較して、市民の戸別収集に対する意見も変わってきていると市長も感じている。

Q 燃やすごみから戸別収集を開始することだが、他の品目は。

A 動物被害を考慮すると、次は容器包装プラスチックを戸別収集にして、クリーンステーション管理の負担を減らしていきたいと思っているが、次の品目拡大を何年度に行うのかということは明確には答えられない。

Q CSはしばらく残るとのことか。

A しばらく残る。

Q 声かけふれあい収集は継続か。

A 継続する。

Q 有料袋の値上げは考えているか。

A 値上げは考えていない。

Q アパート（共同住宅）の集積所の新設は厳しいのでは。

A 戸別収集を開始したら作ってもらうことになる。